

令和 8 年度

外国学校経験者特別入試

【人文・文化学群 比較文化学類】

区 分	出 題 意 図 ・ 正 解 例
小論文(1)【日本語】	<p>問 1</p> <p><u>出題意図</u></p> <p>本文の内容を的確に読み取ったうえで、主要な概念を定義するとともに、その概念が持つ課題を考察して規定字数以内でまとめる能力を問う。</p> <p><u>解答例</u></p> <p>「健康」とは、身体的、精神的、社会的に疾病や障害がなく良好な状態であり、当人がもつ可能性を十全に発揮できる状態として定義できる。しかし、「良好な状態」や「可能性を十全に発揮できる状態」は追求されるべき目標としてみなされることが多いが、かなり曖昧でもある。このような規範的だが曖昧な目標を定義することは、肥満や喫煙習慣など「健康」ではない人々への差別や抑圧を構造的に生み出しかねない問題を抱えている。(199 字)</p> <p>問 2</p> <p><u>出題意図</u></p> <p>現代社会が個人の「健康」に様々な側面からいかに介入しているかが筆者によって示されている。その問題意識を理解したうえで、個人の自由と公共性のせめぎあいや諸個人の自由の比較衡量について、具体的な事例を提示しつつ、思考する力や批判する力、表現する力があるかどうかを問う。</p> <p><u>解答のめやす</u></p> <p>個人と公共性の問題について、どちらか一方への賛同にとどまらず、具体的な事例をあげながら、事例によっていずれが優先されるかを的確に論理的に説明することが求められる。</p> <p>出典</p> <p>玉手慎太郎『公衆衛生の倫理学—国家は健康にどこまで介入すべきか』、3-6 ページ (筑摩書房、2022 年)</p>